

知れば知るほど

長岡京

自然と歴史の町を訪ねて

長岡京市は、四季折々の花、竹林、西山と美しい自然にあふれ、また歴史ある多くの史跡が点在する表情豊かなまちです。

見どころいっぱい
長岡京で、こころ癒しながら散策にお出かけください。

素敵な一日を！



恵解山古墳 (国指定史跡)

乙訓地方最大で、山城地方では3番目の規模をほこる前方後円墳。この古墳は、5世紀前半ごろのもので、全長約130m、周囲に幅約30mの周壕が造られていました。墳丘の斜面に葺石が葺かれ、ここから、埴輪が出土しています。昭和55年の発掘調査で、約700点の鉄製の武器類が発見されました。



(写真 長岡京市教育委員会提供)

長法寺

天台宗延暦寺の末寺。延喜年間(901~923)に、三井寺の智證大師の弟子、千観上人によって開基。山号を清巖山。境内には名水「龍泉(おぼろのいずみ)」があり、鎌倉時代の三重石塔と南北朝時代の宝篋印塔があります。



長岡天満宮



学問の神として有名な菅原道真公を祀っています。道真公はこの地で在原業平らと詩歌管弦を楽しんだと伝えられています。道真公は、左大臣・藤原時平の讒言により太宰府へ左遷された折この地に立ち寄り、都を見返り偲ばれました。見返り天神とも呼ばれています。

境内の東側には八条ヶ池が広がり、4月下旬には樹齢百数十年を経たキリシマツツジが参道を真紅に染め迎えてくれます。八条ヶ池にある「ふれあい回遊のみち」は、平成5年に整備され、水上橋は、中国の西湖に浮かぶ「三潭印月」の回廊をモデルに作られました。



乙訓寺



真言宗豊山派長谷寺の末寺。推古天皇の勅願により聖徳太子が創建したとされ、乙訓地方に現存する最古の寺。延暦4(785)年、桓武天皇の弟で、皇太子早良親王が幽閉され、弘仁2(811)年には空海(弘法大師)が当寺の別当に任じられました。境内には約2,000株の牡丹があり、4月下旬に色とりどりに咲き誇ります。お堂にある本尊の合体大師は秘仏で33年に一度公開されます。寺宝の毘沙門天立像は、平安時代後期に作られた国指定重要文化財。左手に宝塔、右手に宝棒を持ち、幽愁の毘沙門天との異名で伝えられています。



(写真 長岡京市教育委員会提供)

光明寺

西山浄土宗総本山。建久9(1198)年、法然上人の弟子、蓮生法師(熊谷次郎直実)がこの地に草庵を構えました。法然上人が念仏の教えを最初に説いた地であり、ここから念仏の教えが広まったため「浄土門根元地」と称されています。総門をくぐるとゆるやかな石段が広がり、荘厳な建物に迎えられます。アーチ型のみじのトンネルは西山の紅葉の名所として有名で、秋には多くの参拝者で賑わいます。



勝竜寺城公園

勝龍寺城は暦応2(1339)年に細川頼春と師氏が築城したといわれ、天正6(1578)年明智光秀の娘、玉(のちのガラシャ)が細川忠興に嫁いだ城で、1582年の山崎の合戦で戦った光秀がここに本陣を構えました。毎年11月の第2日曜日、勝竜寺城公園を中心に「長岡京ガラシャ祭」が行われます。ガラシャお輿入れ行列は、西国街道を通り、行程2.7kmを巡行し、公園に着いた忠興、玉の二人は「婚礼の儀」を行います。平成19年「日本の歴史公園百選」に選ばれました。(休園日 毎週火曜日・年末年始)



勝龍寺

寺伝によれば、平安時代初期、空海(弘法大師)の開基で、創建時の寺号は、恵解山青龍寺。観音堂を始め99坊が建てられていました。962年大干ばつ時、千観上人の祈りで雨が降り「龍神に勝った」として、村上天皇より勝龍寺の寺号が与えられたといわれています。本尊は十一面観音菩薩立像。国重要文化財で8月18日とガラシャ祭に拝観できます。



楊谷寺・乗願寺



楊谷寺は京都清水寺の開祖延鎮僧都が大同元年(806)に創建。観音信仰と空海(弘法大師)ゆかりの眼病に効く霊水「独鈷水」で知られ、今も毎月17日の縁日には、参拝者で賑わいます。約4,000㎡の庭園、奥ノ院に続く参道に30種約4,500株のあじさいが植栽されています。6月には「あじさい祭」が催されます。この時期、「モリアオガエル」の産卵が見られます。楊谷寺を出て南に行くと浄土谷の集落があります。ここに、恵心僧都が創建した「乗願寺」があります。本尊は、阿弥陀如来座像で「西山の大仏」と呼ばれ高さ2.8m。府指定文化財です。



神足ふれあい町家

江戸時代末期に建てられた旧家。西国街道沿いにあり、もとは店舗と住まいを兼ねた町家で、「紙屋」「医院」「お茶販売店」と変遷してきました。平成12年、国登録有形文化財に登録されました。6部



屋が「田の字」状に並ぶ農家型の間取りが特徴で、表構えに格子、虫籠窓など昔のまま保存されています。(休館日 年末年始)

中山修一記念館

「幻の都」長岡京の都の解明に生涯を捧げた中山修一先生の記念館。ガイドの方のお話を聞きながら、先生の業績、発掘の様子などをうかがい知ることができます。館内には、パネル・遺品・蔵書や資料などが展示されています。



(休館日 毎週火曜日・年末年始)